

Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026

受賞者プロフィール

・ 梅田哲也 | UMEDA Tetsuya

1980年熊本県生まれ、大阪府在住。

現地にあるモノや日常的な素材と、物理現象としての動力を活用したインスタレーションを制作する一方で、パフォーマンスでは、普段行き慣れない場所へ観客を招待するツアー作品や、劇場の機能にフォーカスした舞台作品、中心点を持たない合唱のプロジェクトなどを発表。先鋭的な音響のアーティストとしても知られる。

近年の主な展覧会や公演に、個展「wait this is my favorite part 待ってここ好きなとこなんだ」（ワタリウム美術館、東京、2023）、「奥能登国際芸術祭 2023」（珠洲、石川）、個展「梅田哲也 イン 別府『O滞』」（別府各所、大分、2020）、個展「うたの起源」（福岡市美術館、2019）、「東海岸大地芸術節」（台東、台湾、2018）、また、パフォーマンスとして「Kunstenfestivaldesarts 2017 『Composite: Variations / Circle』」（ブリュッセル）など。



「wait this is my favorite part 待ってここ好きなとこなんだ」
展示風景（ワタリウム美術館、東京、2023） 撮影：後藤秀二



《O階》2020 「さいたま国際芸術祭2020」展示風景
（旧大宮区役所） 撮影：丸尾隆一



「うたの起源」展示風景（福岡市美術館、2019）
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）



《わからないものたち》《りんご》2017 「札幌国際芸術祭2017」
展示風景（金市館ビル／りんご） 撮影：小牧寿里

・ 吳夏枝 | OH Haji

1976年大阪府生まれ、オーストラリア在住。

2012年京都市立芸術大学美術研究科博士後期課程研究領域染織修了

主に、織、染、ほどくなど、繊維素材にまつわる技法を用い、写真、テキスト、音声などを併用したインスタレーション作品を制作。在日韓国人三世の出自を背景に、言葉にされなかった個人の記憶「沈黙の記憶」をめぐる制作や、ワークショップを通しての対話や経験をもとに、記憶の継承の可能性を探求している。現在は、日本とオーストラリアを拠点に活動している。

近年の主な展覧会に、「KANTEN 観展：The Limits of History」(Apexart、ニューヨーク、2023)、「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」(森美術館、東京)、「展示と対話のプログラムアートセンターをひらく 第II期」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2019)、個展「手にたくす、糸へたくす」(小山市車屋美術館、栃木、2019)、「交わるいと『あいだ』をひらく術として」(広島市現代美術館、2017)、個展「一仮想の島— grandmother island」(MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w、京都、2017)など。



《海鳥たちの庭》 2022 「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」 展示風景 (森美術館、東京)
撮影：木奥恵三 画像提供：森美術館



《彼女の部屋にとどけられたもの》 2019
撮影：根本譲 画像提供：水戸芸術館現代美術センター



《海図》 2017-2019 撮影：木暮伸也
画像提供：小山市車屋美術館



《記憶をまとう》 2014 撮影：山本糾